



梅雨の季節に紫陽花が綺麗に咲いています。

6月は「梅雨の季節」で鬱陶しい毎日ですが、街のいたるところで「紫陽花」が咲いています。雨降りには「紫陽花」が良く似合います。「紫陽花」もいろいろな「形や色など種類」があって、どんより空の下でも「明るい色」で景色を彩ってくれます。そして、「紫陽花」は日本から世界に広がった「園芸植物」の一つで、日本にもともと自生していた「ガクアジサイ」がその原種と言われています。江戸時代に「ドイツ人医師のシーボルト」が、ヨーロッパに「紫陽花」を持ち帰って「品種改良」され、より色鮮やかになったものが、私たちが普段よく目にする「西洋紫陽花」なのです。

「紫陽花」は種類が多く、一般的な「パープルからホワイト、ピンク、グリーン、ブルー」など色とりどりです。形も萼が花の周囲を縁取るように並んだ「ガク咲き」、萼が球形になった「手まり咲き」、幾重にも萼が並んだ「八重咲き」や「覆輪」など色々なバリエーションを楽しむことができます。「紫陽花」は英語名で「ハイドランジア」と呼ばれ、日本語にすると「水の器」で、「梅雨の時期」に生き生きと咲くことから分かるように「紫陽花」は水を好む性質の植物です。また、北小金駅のそば松戸市平賀の「本土寺」は「あじさい寺」とも呼ばれ「3万本の紫陽花」と「6千本花菖蒲」で6月は大変賑わいます。

ハヤカワ歯科 院長 早川琢郎



紫陽花

熱中症に気を付けてください

6月に入り暑い日が続いています。「梅雨の時期」に、急に気温の上がる日なども「熱中症」のリスクが高まります。「熱中症」とは気温や湿度が高い環境下で体温の調節がうまくいかず、めまいやだるさなど様々な症状が起こる状態をいいます。「熱中症」で「脱水症状」が起こると、皮膚や粘膜が乾燥します。「唾液」も出にくくなり、「唇や舌も乾燥し口の中が渴く」、「唇や舌がひび割れている」、「舌が乾燥して動きづらい」などの症状が起こります。

「熱中症予防」のためには、「室温調整」をきちんと行い、こまめに「水分補給」をすることが大切です。「口腔内」でも「水分補給」をしたうえで、お口や舌を動かして「唾液」をしっかり出すことで、「お口や舌を潤し」、「乾燥」も予防しましょう。

唾液の素晴らしい働き

唾液の働きを大きく分類すると、「消化作用」「抗菌作用」「粘膜保護・粘膜修復作用」「抗酸化作用」「歯の保護・再石灰化作用」の5つの作用があります。

「消化作用」は「唾液」の中に含まれている「消化酵素アミラーゼ」が「でんぷん」を分解し「麦芽糖」に変え、「リゾチーム」が「タンパク質」を分解します。よく噛むことで食べ物が細くなり、これらの「消化酵素」が良く混じり、「口腔内での消化」の働きがより高まると「胃や腸での消化」が促進されます。そして、「ガンや生活習慣病、老化の原因」ともなる飲食物に含まれる「活性酸素」を「唾液に含まれる糖タンパク、ラクトフェリンの抗酸化作用」の働きにより「無毒化、中和」されると報告されています。



6月のお知らせ

○「ハヤカワ歯科のホームページ」では、「当院の診療方針」や「ハヤカワ歯科インフォメーション」のバックナンバーを掲載しています。これからも、皆様のお役に立つ情報の提供と内容の充実に努めてまいります。

(URL) <http://www.hayakawashika.com/>

「ハヤカワ歯科松戸市小金原」検索をお願いいたします。

○「小児の歯並び」「咬合育成」のご相談、随時受け付けております。

○お口の機能の維持のための「オーラルフレールの簡易検査」、「トレーニング」を行っています。

○「新型コロナウイルス感染症」に対する感染対策は、医療機関のガイドラインに従って「皆様の健康の安心安全」を考慮して、従来通り行っていますので、ご理解ご協力のほどお願いいたします。

○口内環境のための「プロバイオティクス」ご案内しています。

院長 早川琢郎

日曜診療日(9時～13時30分)

6月9日、23日 / 7月21日、28日